

滝上の人

人のつながりを大切に

今回は、札久留 月村良崇さんにスポットをあてていきます。

彰氏が主宰する「森の子供の村」のサマーキャンプに参加したことが、滝上町と関わるきっかけとなりました。

月村さんは、東京都出身の45才。高校卒業まで関東で過ごし、小学校・中学校・高校と水泳競技に熱心に取り組むスポーツ少年でした。

サマーキャンプで体験した農作業へのあこがれから、高校卒業後は、将来、農業に関わる仕事に進みたいと考えて、茨城県にある農業改良普及員を養成する学校に進学して、



研修先のイタリアで技術指導を受ける月村さん（左）

畑作や酪農など農業全般について3年間学びました。

卒業後はまず、特技を活かす形で職業を選択し都内の企業に就職。スポーツジムで水のインストラクターとして働き始めました。

滝上に来るまでについて教えてください。

23才の時、滝上で農作業を体験した頃からの人のつながりで、当時の滝上町農業協同組合の担当者から、「滝上で酪農ヘルパーとして働いてみないか」と声がかかりました。都会での仕事から一転して、思いのあった、農業に関わる仕事に飛び込むことにしました。

それから3年間、酪農ヘルパーの仕事に従事、ここで滝上の酪農家の皆さんと仕事を通して親しくなりました。そして、こちらで酪農ヘルパーとして働いている間に、将来「チーズ作り」を生業にしようと思いを定めました。

その後、ナチュラルチーズの輸入から販売までを手がける、東京の専門商社に就職。

実務を通して、チーズの事や国内の流通、世界情勢について、じっくりと学びました。

東京で働いている間も、滝上の酪農家の皆さんとは交流が続いており、私がチーズの製造に適した場所を探していたところ、「農家だった人の居抜きの住宅が空いているので、こちらでチーズ作りを始めたらどうか」とありがたい話をいただきました。

こうして、家族を伴って再び滝上町に帰ってきました。「チーズ作り」のため、オホーツクはまなす農業協同組合、町内の農家さん、役場の商工観光課や商工会等から助けをいただいたり、生乳購入の手続きとチーズ作りに必要な設備を整え、「月のチーズ」製造がスタートしました。

現在の活動については？

現在、株式会社 月のチーズでは、妻及び従業員と共に働いています。

食に携わる一人として、品質の良いナチュラルチーズを作り続けたいと思っています。私達が作るチーズは、一般

的な製法よりも手間と時間がかかりますが、安全で質の良い商品を提供できれば、という思いで日々チーズ作りに取り組んでいます。

皆さんにひとことお願いします。

現在、チーズ作りを生業として続けて来れたのは、これまで公私にわたりバックアップしていただいた、滝上の地域の皆さんのおかげです。

この町は気持ちの温かい人が多いと思います。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、チーズを作り続けていきたいと思っています。



従業員とともに